

科目	単位 (時間数)	時期	講師名 (職名) (時間数)		
母性の心理・社会学	1 (30)	1 学期	① 院外講師 (社会福祉士、看護師) (10) ② 院外講師 (14) ③ 院外講師 (児童福祉司) (6)		
目標					
助産実践に必要な母子及びその家族の心理・社会面の変化や行動発達、親性と家族の発達について理解できる。					
回	時間	項目	授業内容	授業方法	講師
1	2	文化・社会・経済的要因が母子に与える影響	1) 母子の心理・社会をめぐる諸問題 ・女性のライフサイクルにおける心理・社会的課題 ・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ	講義	①
2	2		・少子化の社会対策と子育て支援施策	講義	
3	2		2) 性役割とジェンダー ・ワークライフバランス 女性労働と子育て	講義	
4	2		・性別役割分業と男性 (父親) の労働	講義	
5	2		・子供が健やかに育つための男女共同 参画社会の実現に向けて	講義	
6	2	母性意識	1) 母性意識の芽生えと発達	講義	②
7	2	母子関係の形成と課題	2) 母子関係の形成 ・母親の育児に対する感情 ・乳幼児期の母子関係	講義	
8	2		講義		
9	2		講義		
10	2	父子関係の形成と課題	3) 父子関係の形成 ・父性の形成と課題	講義	③
11	2	新生児・乳幼児の認知・精神運動・情意の発達	1) ヒトの特徴について 2) 乳児にとってのヒトとモノの世界	講義	
12	2		3) 乳児とヒトとのコミュニケーション 4) ことばの獲得過程	講義	
13	2	現代家族の諸相と病理	1) 現代家族の抱える問題とその解決 2) 児童虐待 ・児童虐待による死亡事例等の報告書の 検証結果から ・ジェノグラムについて	講義	
14	2				
15	2				

授業形態	講義
評価方法 点数配分	レポート試験：指定期日の朝 8:50 を提出期限とする。 講師① 40 点 講師② 50 点 講師③ 10 点 (レポート試験は講師①②については、それぞれの 6 割以上を合格とする) 他の事項については履修規程第 5 条、第 6 条に定めるとおりとする。
テキスト	講師①②④ ・助産学講座 4 講師③ ・助産学講座 8
参考図書等	
備考	講師の授業時期は並行あるいは前後することがある。